

国際バカロレア検討委員会報告書（概要）

■現状と課題（1 ページから 4 ページ）

- 日本の高校生の海外留学者数の減少や、若者のいわゆる「内向き志向」が深刻な状況にある中で、国際社会の様々な場面で外国人と英語で対等に渡り合い、リーダーとして世界を舞台に活躍しうる人材を育成していくことが、今日の教育には強く求められている。
- 東京都では、東京への外国企業の誘致を目指すアジアのヘッドクォータープロジェクトを推進しており、誘致に伴い来日する外国人生徒の教育環境を整備する必要がある。

▶国際社会で活躍する人間の育成に向けたこれまでの主な取組

○都立国際高等学校の設置

- ・国際学科専科の学校として平成元年4月に開校
- ・豊かな国際感覚と優れた外国語能力を養うため、英語と英語以外の外国語及び国際理解を目的とした専門科目を設置

○都立立川国際中等教育学校の設置

- ・「国際社会に貢献できるリーダーとなるために必要な学業を修め、人格を陶冶する。」ことを教育目標に掲げ平成20年4月に開校
- ・日本に留学している各国の大学生との交流など多様な教育プログラムを展開

○外国語コースの設置

- ・都立小平高等学校、都立深川高等学校、都立松が谷高等学校の3校に設置
- ・外国語に対する深い理解力や外国語による豊かな表現力を持った人材の育成、広い視野と豊かな国際感覚の育成などを目標に、外国語（英語）を重点的に学習

○次世代リーダー育成道場の開設

- ・世界を舞台に活躍する国際感覚豊かなタフな若者を東京から輩出するため、平成24年度に開設した、留学にチャレンジする都立高校生を支援するプログラム

■都立学校におけるグローバル人材育成の必要性（5 ページから 6 ページ）

- 社会的要請に応え、世界を舞台に活躍できる人材を計画的に育成することが、首都東京の公立学校として都立学校に課せられた社会的使命である。
- 都立学校の教育課程の中で、次代を担う若者を厳しく鍛え、自信と誇りを持って世界と渡り合える人材を育成していく必要がある。

- このような人材を育成するためには、海外大学進学を目指す強い意欲と高い資質を有する生徒を世界で高く評価されている海外大学に送り出し、一流の教授陣の指導のもとで世界各国から集まってくる優秀な学生と厳しい環境の中で切磋琢磨せつさたくまさせる必要がある。
- 都教育委員会が策定した「都立高校改革推進計画 第一次実施計画」（平成 24 年 2 月）では、都立学校卒業後に、生徒が海外の大学に円滑に進学することを可能とするため、英語により行われる授業を中心とした独自のカリキュラムを開発・実施するとともに、海外大学への進学資格が取得できる都立高校初となる国際バカロレアの認定を目指すことを盛り込んでいる。

■国際バカロレアの概要（7 ページから 13 ページ）

▶国際バカロレアの仕組み

- 国際バカロレアは、スイスのジュネーブに本部を置く国際バカロレア機構から認定を受けた学校の課程を修了し、統一試験に合格した生徒に対し、海外大学への進学資格を付与する仕組みである。
- 国際バカロレアのプログラムには、PYP（初等教育プログラム）、MYP（中等教育プログラム）、DP（ディプロマ・プログラム）の3つがあり、このうち海外大学への進学資格を取得できるのはDP（ディプロマ・プログラム）である。
- 国際バカロレアの認定校数は、平成 24 年 9 月現在、全世界で 3,472 校、そのうち国内の認定校数は 24 校である。
- 国内の認定校 24 校のうち、学校教育法第 1 条に定める学校は 6 校（それ以外はインターナショナルスクール等）で、そのうちDP（ディプロマ・プログラム）の認定を受けているのは 5 校である。

▶DP（ディプロマ・プログラム）のカリキュラムの概要

- 経験や体験活動により社会性を獲得させ、学問とのバランスを取らせる「創造性・活動・奉仕」、生徒に関心のあるトピックを調査させ、研究に対する姿勢と論文執筆の技術を身に付けさせる「課題論文」などに加え、6つの教科の中から各 1 科目を選択し学習する。
- 6つの教科と科目の例は以下のとおりである。

教科	科目の例
第一言語（母国語）	日本語（文学と言語）
第二言語（外国語）	英語など
個人と社会	地理、歴史、経済など
実験科学	物理、化学、生物など
数学と情報処理学	数学、情報など
芸術又は選択科目	美術、音楽、その他選択科目

▶ DP（ディプロマ・プログラム）の教育活動の特徴

○原則、国語を除く教科・科目において外国語（英語）により授業を実施する。

○高度な学習内容に触れながら、教育スタッフと生徒、生徒同士が双方向で議論や討論を行い、問題解決に向け物事を多面的に分析する探究型の授業を行う。

■今後の展開等（14ページから18ページ）

○平成25年度においては、カリキュラムの検討など英語による授業の実施に向けた準備を行うとともに、国際バカロレア（ディプロマ・プログラム）の認定の取得に向けた調査研究を進めていく。

○平成26年度から英語による授業を開始し、将来的な国際バカロレアの認定の取得につなげていく。

▶ 英語による授業の基本的な枠組み

○原則として、国語を除く各科目について、日本語による授業に加え、英語でも授業を行う。

○ディスカッションやディベート等の双方向の授業を少人数指導等により行う。

○原則として英語による授業を実施することから、日本人教員だけでなく、外国人を活用していく。

○教育スタッフの育成については早期に着手していく必要があることから、人材育成策について早急に検討を進めていく。

▶ 国際バカロレアの認定の取得を目指す学校

○都立国際高等学校において、海外大学への進学に対応する英語による授業を実施するとともに、将来的な国際バカロレアの認定の取得に向けた調査研究を進めていく。

【選定理由】

○豊かな国際感覚と優れた外国語能力を持つ人間の育成などを学校の設置理念に掲げ、教育を実践していること

○外国語教育や国際理解教育を推進していること

○海外大学進学者を多数輩出している実績があること

○多くの海外帰国生徒や在京外国人生徒の受け入れ実績があること

▶ 今後の検討

○検討に当たっては、庁内各局との調整を十分に行うとともに、国際高校を中心に関係部門と連携した検討体制を構築し、本報告書で示した基本的な考え方を基に、国際高校の伝統や特色を踏まえつつ、具体的な検討を進めていく。